

つきたい力

- ・自己調整力
- ・論理的思考力・表現力
- ・デジタルシティズンシップ

取組みの概要・ポイント

- ・学習の質を高める：探究的な授業づくりや140字トレーニングを通じて、論理的思考力や表現力を向上させる。
- ・個別最適化と学習習慣の定着：ユニットテストやフォーサイトアプリを活用し、生徒一人ひとりに合わせた学習を実現する。
- ・誰もが参加できる学習環境の整備：オンライン授業や全員参加型の授業を展開し、すべての生徒に学びの機会を保障する。

具体的な取組みの内容

学習の質を高める

すべての教科で探究的な課題を設定し、生徒が主体的に学ぶ授業づくりを進めている。生徒たちは、様々な資料から情報を読み取り、それをもとに論理的に考えを構築する力を育むとともに、1人1台端末を活用し、プレゼンテーションやポスターセッションなど多様な方法で自分の考えを表現する機会を増やした。課題解決型の学習では、信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を育んだ。生徒たちが安全かつ責任を持ってICTを活用できる力を育成し、学びの質の向上と社会での主体的な活躍をめざし、取り組んだ。

140字トレーニング

読解力や論理的思考力を養い、他教科にも応用できる基礎力を身につける。



グループ内ディスカッション

論理的に考えを組み立て、表現する力を鍛えるとともに、協働して学ぶ力を身につける。



個別最適化と学習習慣の定着

従来の定期テストを単元テスト(ユニットテスト)に移行し、各単元ごとに生徒の理解度をきめ細かく把握することで、より効果的な指導を行った。さらに、デジタル採点システムを活用し、迅速かつ正確に結果を分析することで、生徒一人ひとりに最適な補習問題を配信した。スケジュール管理アプリフォーサイトやAIドリルを活用し、小さなPDCAサイクルを回しながら、学習の定着を促進した。

百問線乱CBTで補習問題配信

確認画面では、設問ごとの正解と生徒の解答が表示される。これにより、生徒自身が必要な復習や学習計画を立てやすくなる。



フォーサイトアプリ

学習の目標を設定し、計画を立て、達成度を振り返るとともに、教員からのフィードバックを受け学習サイクルが効果的に循環する。

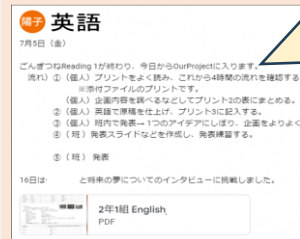


誰もが参加できる学習環境の整備

「全員が参加できる授業の実現」をめざし、昨年度に引き続き、登校が難しい生徒を含め、すべての生徒が学びの機会を確保できるよう、3学年で5教科のオンライン授業を実施し、教室以外からでもリアルタイムで授業に参加できる環境を整えた。また、Google Classroomを活用し、授業記録や教材を投稿することで、授業内容の振り返りや予習・復習を容易に行えるように工夫した。

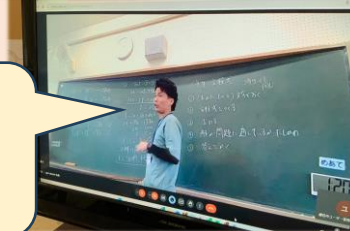
Google Classroomでの授業記録の投稿

その授業のめあて(学習目標)や授業の流れ、授業中の板書の画像を投稿。生徒は授業内容のポイントや進度を把握しやすくなる。



オンライン配信

授業だけでなく、学年行事、始業式、終業式も配信。校内支援センターで学ぶ生徒や登校が難しい生徒たちも参加できる。



取組み公開HP

取組みを通しての子どもの変容

生徒アンケート「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫している。」の項目の肯定的な回答が、1学期から2学期にかけ76.1%から86.8%に向上した。ユニットテストでは、単元ごとに理解度を把握することで、苦手な部分を明確にし、フォーサイトアプリを活用して、目標設定や振り返りを行うようになった。PDCAサイクルを回すことで、生徒の学びに向かう姿勢や自己調整力が高まり、授業に積極的に取り組む姿が見られるようになった。